

---

## 1 機械 試験実施要領

---

### 1. 試験実施場所の選定

試験は各資材とも在バと黄色種産地各 1 か所、計 2 か所を原則とするが、試験依頼機の特  
性等により試験地数は変更する場合もある。なお、試験依頼機の特性等に応じ試験委託農家、  
ほ地の選定を必要とするが土質、傾斜度等指定する場合がある。

### 2. 試験規模

試験区は原則として対照区（慣行区）と試験区の 2 区制とするが、試験依頼機によっては  
試験区のみの場合もある。各区の試験面積は試験計画書による。

### 3. 試験資器材の準備

基本的に対照とする慣行法以外の試験区の供試資器材は、試験依頼者が準備し各試験地  
に送付する。各試験依頼者との試験の詳細、準備等の調製については、試験を実施する研究  
機関、各原料本部が試験目的、内容、実施時期等に応じ、時期を失しないよう早めに連絡し  
対応すること。

### 4. 試験方法

以下の要領に基づいて行う他、試験計画書および報告様式、同記入要領を参考に抜けがな  
いよう試験を実施する。

#### 1) 試験依頼機の現物確認

調査担当者は試験機に添付されている銘板にて品名、型式が試験依頼機と同様であるか  
確認する。

#### 2) 試験機の取扱い方法の説明

試験実施前に試験依頼者から試験作業（受託者）等立ち会いで、取扱い説明書と現物を  
もとに詳細に説明を受け、安全作業に努める。

#### 3) 供試品種

供試品種は試験計画書により指定する。

#### 4) 供試資材の規格

対照区に用いる機械・資材も可能な限りメーカー名や型式を調査する。

#### 5) 試験方法

試験は試験計画書および報告様式によるほか、試験依頼者作成のマニュアル等にしたがっ  
て適正に行う。なお、以下の要領に注意する。

##### (1) 作業時間の計測

時間の計測を伴う場合は実作業（移植なら直接移植する作業）時間、回行（旋回=畦外での  
機械の方向転換）時間、その他補給（移植なら苗の補給）時間等分離した計測が少なくとも  
3 反復は行う。

##### (2) 作業人員

作業するにあたり適正作業人員を試験依頼者と事前に打ち合わせし、必要以上の作業人員  
にならないようにする。

##### (3) 写真撮影

対照区、試験区に使用する機器等の試験実施前の全体構成や作業中の写真を撮影する  
（試験結果報告時に農業機械担当専門委員までメール、USB等で送付する）。

## 5. その他調査上の留意事項

- 1) 実施要領に無い機材  
この実施要領に記載されていない機材の実施要領（報告様式を含む）については、別途通知する。
- 2) 資材の内容によっては、調査事項に変更される場合があるので専門委員の指示に従い実施する。
- 3) 不明な点については、農業機械担当の専門委員に相談する。

## 6. 試験成績書作成上の留意事項

- 1) 次のものの成績書作成にあたっては、基本様式によるほか、供試機別報告様式を参考にすること。

【施肥作業性】	[乗用トラクタ用施肥機, 歩行トラクタ用施肥機] [自走式堆肥散布機 等]
【畦立被覆作業性】	[乗用トラクタ用畦立被覆機, 歩行トラクタ用畦立被覆機 等]
【移植作業性】	[自走式移植機, 自動給苗移植機 等]
【薬剤散布作業性】	[自走式薬剤散布装置, 高架型薬剤散布装置 等]
【接触型わき芽抑制剤散布作業性】	[定量散布ができる接触型わき芽抑制剤散布装置等]
【運搬作業性】	[高架型作業車, 畦間作業車 等]
【収穫作業性】	[たばこ収穫機, 総掻き収穫機 等]
【葉編み・吊込作業性（黄色種）】	[マシン葉編み機, ハンガー・ラック 等]
【吊込作業性（黄色種）】	[吊り上げ機, リフト 等]
【葉編み・吊込作業性（在・バ）】	[在・バ用葉編み機 等]
【圧搾梱包作業性】	[圧搾梱包機 等]

- 2) 報告様式中の『斜体』で記載された文章・数値は、すべて記入例であるので、参考にして記入する。
- 3) 提出する試験成績書の文字フォントは、すべて『明朝体』とすること。
- 4) 表中の数値は、すべて『半角』で記入する。
- 5) 表外の文章等でカタカナで記入する場合は、すべて『全角カタカナ』で記入する。
- 6) 乗用型トラクタによる作業で、4輪とも駆動した状態で作業した場合 「4輪駆動で作業」を作業能率表の下に注釈として記入する。
- 7) 乗用型トラクタによる作業で、バランスウェイトを使用した場合 「バランスウェイトを搭載した場所とその合計重量」を作業能率表の下に注釈として記入する。
- 8) 乾葉の外観性状で、もろめ、むれ、くすみ等については、『ひらがな』で記入する。

## 7. 作業能率の算出方法

## 1) 記入例【移植作業性の場合】

※作業能率

作業名	作業幅	作業速度	理論作業量	回 行		苗の補給		ほ場作業効率	ほ場作業量	作業人員
				時間	回数	時間	回数			
収 穫 (中葉)	m 1.20	m/s 0.21	a/h 9.12	分/回 1.50	回/10a 8.9	分/回 5.50	回/10a 4.5	% 63.2	a/h 5.76	人 2
	①	②	③	④	⑤	④	⑤	⑥	⑦	⑧

注) 作業速度 : 0.8km/h

## 2) 記入方法

①作業幅については畦間距離、作業畦数により算出する。

$$\begin{aligned} \text{○作業幅} &= \text{畦間距離} \times \text{作業畦数} \\ 1.20 \text{ m} &= 1.20 \text{ m} \times 1 \text{ 畦} \end{aligned}$$

②作業速度については実測して算出する。

※作業速度は、作業が付帯作業により停止しない作業距離と時間により算定する。

$$\begin{aligned} \text{○作業速度} &= \text{作業距離} \div \text{時間} \\ 0.21 \text{ m/s} &= 94 \text{ m} \div 445 \text{ sec (7分25秒)} \\ \text{km/h換算} \quad 0.76 \text{ km/h} &= 0.21 \text{ m/s} \times 3,600 \div 1,000 \text{ (単位調整)} \end{aligned}$$

③理論作業量については、作業幅・作業速度をもとに算出する。

$$\begin{aligned} \text{○理論作業量} &= \text{作業幅} \times \text{作業速度} \times \text{単位調整} \\ 9.12 \text{ a/h} &= 1.20 \text{ m} \times 0.76 \text{ km/h} \times 10 \end{aligned}$$

④回行、・・・補給時間等の付帯作業時間は、各作業3～5回調査し平均値を記入する。

$$\begin{aligned} \text{○回行時間} &: 1.50 \text{ min/回} \\ \text{○苗補給時間} &: 5.50 \text{ min/回} \end{aligned} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{※他作業での付帯作業} \\ \cdot \text{移植機作業性} : \text{苗補給} \\ \cdot \text{肥料散布作業性} : \text{苗補給時間} \\ \cdot \text{薬剤散布作業性} : \text{薬液補給} \quad \text{等} \end{array}$$

⑤10a当たりの処理回数を調査する。(計算できるものは試算値でも良い)

$$\begin{aligned} \text{○回行回数} &: 8.9 \text{ 回/10a} \\ \text{試算例)} & \quad \text{面積(10a)} \quad \text{作業幅} \quad \text{畦長} \\ & \quad 1000 \text{ m}^2 \div 1.20 \text{ m} \div 94 \text{ m} = 8.9 \text{ 回/10a} \\ \text{○苗補給回数} &: 4.5 \text{ 回/10a} \end{aligned}$$

⑥ほ場作業効率については、③と④および⑤の10a当たり処理回数により算出する。

(小数点第1位)

$$\begin{aligned} \text{○10a当たり理論作業量} &= 10 \text{ a} \div \text{③理論作業量} \\ 1.10 \text{ h/10a} &= 10 \text{ a} \div 9.12 \text{ a/h} \end{aligned}$$

○付帯作業時間(10a当たり換算)

$$\begin{aligned} \text{○回行時間 (1.50 min/回)} \times \text{回行回数 (8.9 回)} &= 13.35 \text{ min/10a} \\ \text{○苗補給時間 (5.50 min/回)} \times \text{苗補給回数 (4.5 回)} &= 24.75 \text{ min/10a} \\ \text{合計} &= 38.10 \text{ min/10a (0.64 h/10a)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{○ほ場作業効率} &= 10 \text{ a 当たり理論作業量} \div (10 \text{ a 当たり理論作業量} + \text{付帯作業時間}) \times 100 \\ 63.2 \% &= 1.10 \text{ h/10a} \div (1.10 \text{ h/10a} + 0.64 \text{ h/10a}) \times 100 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{⑦ほ場作業量} &= 10 \text{ a} \div (10 \text{ a 当たり理論作業量} + \text{付帯作業時間}) \\ 5.75 \text{ h/10a} &= 10 \text{ a} \div (1.10 \text{ h/10a} + 0.64 \text{ h/10a}) \end{aligned}$$

⑧作業人員を記入する。

注) ①～⑧の桁数は作業能率の表中と同じとする。

試験対象名<sup>イ</sup>  
〇〇〇〇<sup>ハ</sup>  
試験担当機関名<sup>ロ</sup>

1 試験対象名<sup>イ</sup> 試験対象名

2 供試器材名<sup>ハ</sup> 試験機械名 〇〇〇〇 (メーカー名)  
型 式 TSX555

3 試験実施場所<sup>ニ</sup> 〇〇原料本部  
〇〇県〇〇郡〇〇町

【試験方法および試験成績については、機種毎の解説を参照する】<sup>ホ</sup>

4 試験方法 供試品種 第1黄色種 コーカ-319

2) 試験区別 1区 試験 TSX555 10 a

3) 供試機の仕様および図面<sup>ヘ</sup>  
仕様および図面の部 参照

4) <sup>ト</sup>

・)

5 試験成績<sup>チ</sup>

1)

2)

3)

\*) 作業性・操作性<sup>リ</sup>

・) その他<sup>ス</sup>

6 結果の要約<sup>ル</sup>

## 1. 各項目の記入例

- イ. 試験計画書の試験対象名を記入する。なお、ヘッダーにも記入する。
- ロ. ヘッダーに記入する。
- ハ. 試験計画書に記載された資器材の名称（株式会社、有限会社等を除いたメーカー名）および型式を記入する。ヘッダーには資器材の名称のみ記入する。
- ニ. 所内の場合は，“所内”と記入する。産地試験の場合は以下のとおりとする。  
 ○○原料本部  
 試験委託農家（または試験実施場所）の住所（市町村名まで）
- ホ. “4 試験方法 1) 供試品種” から “5 試験成績 \*) 作業性・操作性” の前までは、供試機別報告様式に基づき実施し記入する。
- ヘ. 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。
- ト. 「試験機の仕様」以外の仕様の記載方法  
 トラクタ着装アタッチメントの場合など  
 歩行型および乗用型トラクタ着装のアタッチメントの場合、使用したトラクタの仕様を“3) 供試機の仕様および図面”の後に“4) 供試トラクタの仕様”として記載する。

## 1) 記入例

## 4) 供試トラクタの仕様

項 目	仕 様	項 目	仕 様
メーカー名 名称・型式 駆動方式 エンジン 出 力 総排気量 変速段数	ヤンマー F-250 4WD 25PS/2,500rpm 1,330 cc 前進8段後進8段	作業機昇降方式 作業機装着方式 (その他)	油圧 3点リンク

## 2) 記入方法

- (1) メーカー名、名称・型式については、銘板等により確認する。
- (2) 駆動方式については、乗用トラクタのみ記入する。
- (3) エンジン出力で回転数が不明の場合は、出力数のみ記入する。
- (4) 歩行型トラクタの場合には、作業機昇降方式、装着方式は不要。
- (5) その他については、供試器材別に指示された場合、項目および仕様を記入する。

## チ. 作業能率の算出方法

作業能率の算出方法参照(pIV-1-3)

- リ. 試験を通じて感じた作業性、取扱性について、箇条書きに簡記する。  
 作業性、取扱性上で、改善希望項目があれば、箇条書きに簡記する。  
 慣行に比べ、明らかに作業性が低下する場合はその旨記入する。
- ヌ. 明らかに（あるいは想定される）危険と思われる部位や、試験中に発生したトラブル等（異常音、部品の脱落、誤動作等）について箇条書きに簡記する。  
 また、トラクタの駆動方式やクローラ等の駆動方式により、作業に影響がある場合はその旨記入する。
- ル. 取扱性、作業性についての問題点等も踏まえ、試験成績に基づき客観的に記入する。特別の理由がある場合は、考察を加える。

## 4 試験方法

1) 試験区別<sup>イ</sup>

1 区 試験

T S X 5 5 5

5.0a

2) 供試機の仕様および図面<sup>ロ</sup>

仕様および図面の部 参照

3) 供試トラクタの仕様<sup>ハ</sup>

項 目	仕 様	項 目	仕 様
メーカー名 名称・型式 駆 動 方 式 エンジン 出 力 総排気量 変速段数	ヤンマー F-250 4WD 25PS/2,500rpm 1,330 cc 前進8段・後進8段	作業機昇降方式 作業機装着方式  (その他)	油圧 3点リンク

## 4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌種類 <sup>ヒ</sup>	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	土 壌 <sup>ト</sup>	畦 長 <sup>チ</sup>	畦 間 <sup>チ</sup>	枕地幅 <sup>リ</sup>
畑	赤ボク	壤土	° 上下5	普 通	m 92	cm 115	m 3.0

## 5) 設定施肥量

ホッパー <sup>ス</sup>	肥 料 名 <sup>ル</sup>	設定施肥量 <sup>ヲ</sup>	
		10a 当たり	1m 当たり
第1ホッパー	有機化成	kg/10a 120	g/m 140
第2ホッパー	合成草木灰	40	46

## 5 試験成績

## 1) 散布精度

ホッパー <sup>ス</sup>	肥 料 名 <sup>ヲ</sup>	平均散布量 <sup>カ</sup>	変動係数 <sup>コ</sup>	散布幅 <sup>ク</sup>
第1ホッパー	有機化成	g/m 135	% 1.3	cm 10
第2ホッパー	合成草木灰	44	1.8	8

## 2) 散布量誤差

ホッパー <sup>ス</sup>	肥 料 名 <sup>ヲ</sup>	設定散布量 <sup>レ</sup>	実績散布量 <sup>ソ</sup>	散布誤差 <sup>ツ</sup>
第1ホッパー	有機化成	kg/10a 120	kg/10a 117	% 2.5
第2ホッパー	合成草木灰	40	38	5.0

3) 作業能率<sup>キ</sup>

作業名	作業幅	作業速度	理 論 作業量	回 行		肥料補給		ほ 場 作業効率	作業 人員
				時間	回数	時間	回数		
施肥	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人

注) 作業速度: km/h

## 4) 作業性・操作性

## 施肥作業性対象機種

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ・乗用型トラクタ用施肥機   | ・歩行型トラクタ用施肥機   |
| ・自走式施肥機        | ・その他施肥機        |
| ・乗用型トラクタ用堆肥散布機 | ・歩行型トラクタ用堆肥散布機 |
| ・自走式堆肥散布機      | ・その他堆肥散布機      |

- イ 試験計画書に記載された試験区別および試験面積を記入する。
- ロ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。
- ハ 供試トラクタの仕様を記入する。
- ニ 地目：田，畑の別を記入する。  
 土壌種類：砂丘未熟地，腐植質黒ボク土，淡色黒ボク土（赤ボク，赤ホヤ，シラス等），赤色土，黄色土，灰色低地土，褐色森林土等の具体的な名前を記入する。
- ホ 土性：砂土，砂壤土，壤土，埴壤土，埴土，礫質土の別を記入する。
- ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は，緩傾斜，平坦等の別を記入する。
- ト 土壌水分を達観で調査し，低，普通，高の別を記入する。
- チ 畦長、畦間距離を記入する。
- リ 施肥機の回行に必要な枕地を記入する。
- ヌ 施肥機にホッパーが複数ある場合，そのホッパー毎に記入する。
- ル 散布した肥料名を記入する。
- ヲ 設定した施肥量を記入する。
- ワ 散布した肥料名を記入する。
- カ 散布量の調査を10反復以上調査し，平均値を記入する。
- コ 変動係数を計算し記入する。
- $$\text{変動係数} = \frac{\text{散布量の標準偏差}}{\text{平均株間}} \times 100$$
- タ 肥料の散布幅を記入する。
- レ 10a 当たり設定散布量を記入する。
- ソ 10a 当たり実績散布量を記入する。
- ツ 散布誤差（設定散布量と実績散布量の差÷設定散布量×100）を計算し記入する。
- ネ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。

#### 4 試験方法

##### 1) 試験区別<sup>イ</sup>

1 区 試験                      T S X 5 5 5                      10.0 a

##### 2) 供試材料<sup>ロ</sup>

マルチフィルムの規格    厚さ0.02mm×幅135cm 200m/巻  
 施肥位置確認用資材    籾殻

##### 3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

##### 4) 供試トラクタの仕様<sup>ニ</sup>

項 目	仕 様	項 目	仕 様
メーカー名 名称・型式 駆 動 方 式 エンジン 出 力 総排気量 変速段数	ヤンマー F-250 4WD 25PS/2,500rpm 1,330 cc 前進8段・後進8段	作業機昇降方式 作業機装着方式  (その他)	油圧 3点リンク

##### 5) ほ地条件

地目 <sup>ホ</sup>	土壌種類 <sup>ホ</sup>	土性 <sup>ヘ</sup>	傾斜 <sup>ト</sup>	土壌水分 <sup>チ</sup>
畑	腐植質色黒ボク土	壤土	上下5°	地表面から 0～5cm：適 地表面から10～15cm：適

#### 5 試験成績

##### 1) 畦の形状，被覆の状態

畦の形状 <sup>リ</sup>			畦立の状態 <sup>ス</sup>	被覆の状態 <sup>ル</sup>
畦長	高さ	底幅		
m 92	cm 33	cm 78		

##### 2) 肥料の状態

施肥方法		畦立時の施肥位置 <sup>ワ</sup>	攪拌の有無 <sup>ヨ</sup>	備 考 <sup>タ</sup>
方 法 <sup>ヅ</sup>	施肥幅 <sup>ヅ</sup>			
平地	cm 10	畦頂上から                      cm 14	無	

##### 3) 作業能率<sup>レ</sup>

作業名	作業幅	作業速度	理 論 作業量	回 行		フィルムロールの装着		ほ 場 作業効率	作業 人員
				時間	回数	時間	回数		
畦立被覆	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人

注) 作業速度：                      km/h

##### 4) 作業性・操作性



## 畦立被覆作業性対象機種

- ・乗用トラクタ用畦立被覆機
- ・歩行トラクタ用畦立被覆機
- ・その他

- イ 試験計画書に記載された試験区別および試験面積を記入する。
- ロ 1) マルチフィルムの規格および施肥位置確認用資材名を記入する。  
2) 生分解性マルチ等を利用した場合も名称、規格等を記入する。
- ハ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。
- ニ 供試トラクタの仕様を記入する。
- ホ 地目：田、畑の別を記入する。  
土壌種類：砂丘未熟地、腐植質黒ボク土、淡色黒ボク土（赤ボク、赤ホヤ、シラス等）、赤色土、黄色土、灰色低地土、褐色森林土等の具体的な名前を記入する。
- ヘ 土性：砂土、砂壤土、壤土、埴壤土、埴土、礫質土の別を記入する。
- ト 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は、緩傾斜、平坦等の別を記入する。
- チ 土壌水分を上下2層（地表面から0～5cm、地表面から10～15cm）に分け調査し、過乾、低、適、多の別を記入する。
- リ 畦長、畦の高さおよび底幅を調査し記入する。
- ヌ 畦立の状態を簡単にコメントする。  
例）タバコの移植に適した硬さで成畦され、形状も均一であった。
- ル マルチフィルムの被覆状態（マルチのよれ、密着性、裾の覆土状況等）を記入する。  
例）マルチフィルムは、よれもなく畦面に密着して被覆され、裾の覆土状況も良好であった。
- ヲ 平地、小畦上、溝堀後の別を記入する。
- ワ 施肥幅を数カ所調査し、その平均値を記入する。
- カ 畦頂上からの肥料の位置を記入する。
- ヨ 肥料の攪拌の有無を記入する。
- タ その他特記事項があれば記入する。
- レ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1黄色種 コーカ-3192) 試験区別<sup>ロ</sup>

1 区 対照 移植機, 簡易移植機等 1.0 a  
 2 区 試験 TSX555 10.0 a

3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌種類 <sup>ヒ</sup>	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	畦溝の <sup>ト</sup> 水分	畦株間 <sup>チ</sup> 距離	畦形状 <sup>リ-1</sup>		畦溝形状 <sup>リ-2</sup>		枕地幅
						畦長	畦高	畦溝幅	残土形状	
畑	シラス	壤土	上下5°	普通	cm×cm 115×42	92 <sup>m</sup>	cm 33	cm 25	幅cm, 高cm 10・5	<sup>m</sup> 2.4

5) 移植苗の状況

区別	草丈	絞り丈	葉数	最大葉			根の状態 <sup>ス</sup>		
				葉長	葉幅	位置	良	普通	少
1 区	cm 2.5	cm 11.0	枚 9.5	cm 10.1	cm 6.3	枚目 6.8	% 70	% 25	% 5
2 区	2.5	11.0	9.5	10.1	6.3	6.8	70	25	5

注) 根の状態：良……包土を根が良く巻き包土が崩れないもの  
 普通…包土が1／4程度崩れたもの  
 少……包土の1／3以上が崩壊するもの

6) 使用肥土および育苗ポット<sup>ル</sup>

## 5 試験成績

1) 移植精度

区別	植付状態 <sup>ヲ</sup>					給苗 <sup>ヅ</sup> ミス	苗の <sup>カ</sup> 損傷	調査 <sup>ヅ</sup> 株数	初期生育の状況 <sup>ヅ</sup>
	正常	深植	浅植	横転	欠株				
1 区	% 85	% 5	% 7	% 0	% 3	% 3	% 1	本 200	
2 区	85	5	7	0	3	3	1	200	

注) 深植：葉部の1／3以上が埋没したもの  
 浅植：包土の2／3以上が露出したもの

2) 株間距離

区別	設定株間 <sup>レ</sup>	平均株間 <sup>ソ</sup>	変動係数 <sup>ツ</sup>	調査株数 <sup>ネ</sup>
	cm	cm	%	本
1 区	42.0	42.5	1.5	100
2 区	42.0	42.5	1.5	100

3) 移植作業能率<sup>ナ</sup>

区別	作業幅	作業速度	理論作業量	回 行		苗の補給		ほ 場 作業効率	作業 人員
				時間	回数	時間	回数		
1 区	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人
2 区									

注) 作業速度： km/h

4) 作業性・取扱性

## 移植作業性対象機種

- ・自走式移植機
- ・高架型作業車移植装置
- ・自動給苗移植機

イ “第1黄色種 コーকার319”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験計画書に記載された試験区別および試験面積を記入する。

ハ 供試機の仕様および図面については，別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ニ 地目：田，畑の別を記入する。

土壌種類：砂丘未熟地，腐植質黒ボク土，淡色黒ボク土（赤ボク，赤ホヤ，シラス等），赤色土，黄色土，灰色低地土，褐色森林土等の具体的な名前を記入する。

ホ 土性：砂土，砂壤土，壤土，埴壤土，埴土，礫質土の別を記入する。

ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は，緩傾斜，平坦等の別を記入する。

ト 畦溝の土壌水分を達観で調査し，低，普通，高の別を記入する。

チ 畦株間距離を記入する。

リー1 畦長，畦高を記入する。

ー2 移植時の畦溝形状を記入する。事前の中耕等実施し平坦な場合は中耕済みと記入する。

ヌ 根の状態を“注）”に基づき調査し記入する。

ル 使用肥土および使用育苗ポットの種類を記入する。

例）購入肥土（メーカー名、肥土名）、72穴専用セルポット

ヲ 植付状態を調査し，合計が100%になるように記入する。

ワ 給苗ミスについては，自動給苗移植機のみ調査する。その他の機種の場合は，この欄は不要。

カ 苗の損傷については，最大葉の脱落，心部の折れ等，生育に影響があるものを調査し，パーセントで記入する。この欄は，自動給苗移植機のみ調査し，その他の機種の場合不要。

コ 調査株数を記入する。

タ 初期生育の状況を，移植後3～4週間をめどに調査し，記入する。

レ 機械で設定した株間を記入する。

ソ 移植後，20本分以上の株間を調査し，平均株間を記入する。

ツ 変動係数を計算し記入する。

$$\text{変動係数} = \frac{\text{株間の標準偏差}}{\text{平均株間}} \times 100$$

ネ 調査株数を記入する。

ナ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1黄色種 コーカー319

2) 試験区別

1区 試験<sup>ロ</sup> TSX555 10.0a3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌 <sup>ヒ</sup> 種類	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	畦溝の <sup>ト</sup> 水分	畦株間 <sup>チ</sup> 距離	畦立の状況 <sup>リ</sup>			枕地幅
						畦長	畦高	畦溝幅	
畑	赤ホヤ	壤土	° 上下5	普通	cm×cm 115×42	m 92	cm 33	cm 25	m 2.4

5) 散布方法

噴霧の <sup>ス</sup> 方向	散布畦数 <sup>レ</sup>	作業幅 <sup>フ</sup>	総噴霧 <sup>ソ</sup> ノズル数	防除対象 <sup>カ</sup> 病虫害	設定 <sup>コ</sup> 散布量
水平噴霧	畦 3	m 3.45	個 18	うどんこ病	リットル/10a 80
垂直噴霧	5	5.75	5	アブラムシ	100

## 5 試験成績

1) ノズル間の吐出量

噴霧の <sup>ス</sup> 方向	設定 <sup>ツ</sup> 圧力	ノズルの位置別噴霧量 <sup>レ</sup>					
		No. 1	No. 2	No. 3	・	・	・
水平噴霧	MPa 0.5	ml/分 1300	ml/分 1350	ml/分 1350	ml/分	ml/分	ml/分
垂直噴霧	0.5	1550	1600	1500			

2) 散布誤差

噴霧の方向	実績散布量 <sup>ソ</sup>	散布誤差 <sup>ツ</sup>
	リットル/10a	%
水平噴霧	81.5	1.9
垂直噴霧	100.0	0.0

3) 作業能率<sup>キ</sup>

噴霧の 方向	作業幅	作業 速度	理 論 作業量	回 行		薬液補給		ほ 場 作業効率	作 業 人員
				時間	回数	時間	回数		
水平噴霧	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人
垂直噴霧									

注) 作業速度: km/h

4) 葉の損傷

噴霧の方向	調査株数 <sup>ナ</sup>	葉の損傷状況 <sup>ラ</sup>
水平噴霧	本 80	
垂直噴霧	80	

5) 作業性・操作性

## 薬剤散布作業性対象機種

- ・自走式薬剤散布機
- ・畦間作業車薬剤散布装置
- ・高架型作業車薬剤散布装置
- ・その他薬剤散布装置

- イ “第1黄色種 コーカー319”のようにB区分，C区分を併記する。
- ロ 試験区別および試験面積を記入する。なお，試験区別については，1区の場合と2区以上の場合があるので，試験計画書に基づき実施する。
- ハ 供試機の仕様および図面については，別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。
- ニ 地目：田，畑の別を記入する。  
 土壌種類：砂丘未熟地，腐植質黒ボク土，淡色黒ボク土（赤ボク，赤ホヤ，シラス等），赤色土，黄色土，灰色低地土，褐色森林土等の具体的な名前を記入する。
- ホ 土性：砂土，砂壤土，壤土，埴壤土，埴土，礫質土の別を記入する。
- ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は，緩傾斜，平坦等の別を記入する。
- ト 畦溝の土壌水分を達観で調査し，低，普通，高の別を記入する。
- チ 畦株間距離を記入する。
- リ 畦長，畦高，畦溝幅，枕地幅を記入する。
- ヌ 水平噴霧（薬液の吐出が水平で立状体の横から散布），垂直噴霧（薬液の吐出は立状体の真上から散布）の別を記入する。
- ル 散布畦数を記入する。
- ヲ 畦間距離×散布畦数を記入する。
- ワ 噴霧ノズルの総数を記入する。
- カ 防除の対象病害虫を記入する。
- コ 設定散布量を記入する。
- タ 動力噴霧機（器）の設定圧力を記入する。
- レ ノズル位置別に各ノズルの吐出量を全て反復調査（3回以上）し，平均値を記入する。
- ソ 実績散布量を記入する。
- ツ 散布誤差（設定散布量と実績散布量の差÷設定散布量×100）を計算し記入する。
- ネ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。
- ナ 調査株数は50本以上とする。
- ラ 機械が通ることにより発生した葉折れ等の状況を記入する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup>

第1黄色種 コーকার319

## 2) 試験区別

1区 試験<sup>ロ</sup>

TSX555

10.0 a

3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

## 4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌 種類 <sup>ヒ</sup>	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	畦溝の <sup>ト</sup> 水分	畦株間 <sup>チ</sup> 距離	畦 立 の 状 況 <sup>リ</sup>			
						畦長	畦高	畦溝幅	枕地幅
畑	シラス	壤土	° 上下5	普 通	cm×cm 115×42	m 92	cm 33	cm 25	m 2.4

## 5) 散布方法

散布時期 <sup>ス</sup>	作業畦数 <sup>レ</sup>	作業幅 <sup>フ</sup>	使 用 ノ ズ ル <sup>フ</sup>		設定散布量 <sup>カ</sup>	散布位置 <sup>コ</sup>
			型 式	散布状態		
発蕾直後	畦 2	m 2.30	○社 abc	スポット	ml/回 15	cm 茎頂から下 15
心止2日後	2	2.30	□社 def	シャワー	30	茎頂から上 10

## 5 試験成績

## 1) ノズル間の吐出量

設定散布量 <sup>カ</sup>	設定 <sup>タ</sup> 圧力	左右交互散布 <sup>レ</sup>		左右同時散布 <sup>レ</sup>	
		左側	右側	左側	右側
ml/回 15	MPa 0.3	ml/回±標準偏差 15.5±1.1	ml/回±標準偏差 16.1±1.6	ml/回±標準偏差 14.0±3.0	ml/回±標準偏差 16.2±2.5
30	0.3	15.5±1.1	15.5±1.1	15.5±1.1	15.5±1.1

## 2) 散布誤差

散布時期 <sup>ス</sup>	設定散布量 <sup>カ</sup>	予定散布株数 <sup>ソ</sup>	実績散布株数 <sup>ツ</sup>	散布誤差 <sup>ネ</sup>
発蕾直後	ml/回 15	株 500	株 512	% 102.4
心止2日後	30	500	500	100

3) 作業能率<sup>ナ</sup>

散布時期 <sup>ス</sup>	作業幅	作業 速度	理 論 作業量	回 行		薬液補給		ほ 場 作業効率	作業 人員
				時間	回数	時間	回数		
発蕾直後	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人
心止2日後									

注) 作業速度: km/h

## 4) 作業性・操作性

## 接触型わき芽抑制剤散布作業性対象機種

- ・ 定量散布が出来る接触型わき芽抑制剤散布装置（アタッチメント等を含む）
- \*定量散布式の例：シリンダ式、電池（タイマ式）による自動間欠吐出式

- イ “第1黄色種 コーকার319”のようにB区分、C区分を併記する。
- ロ 試験計画書に記載された試験区別および試験面積を記入する。
- ハ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。  
なお、他作業機搭載型の仕様は専門委員と協議する。
- ニ 地目：田、畑の別を記入する。  
土壌種類：砂丘未熟地、腐植質黒ボク土、淡色黒ボク土（赤ボク、赤ホヤ、シラス等）、赤色土、黄色土、灰色低地土、褐色森林土等の具体的な名前を記入する。
- ホ 土性：砂土、砂壤土、壤土、埴壤土、埴土、礫質土の別を記入する。
- ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は、緩傾斜、平坦等の別を記入する。
- ト 畦溝の土壌水分を達観で調査し、低、普通、高の別を記入する。
- チ 畦株間距離を記入する。
- リ 畦長、畦高、畦溝幅、枕地幅を記入する。
- ヌ 散布時期を、“発蕾直後”“心止〇日前”“心止〇日後”のように記入する。
- ル 作業畦数を記入する。
- ヲ 作業幅（作業畦数×畦幅）を記入する。
- ワ 使用ノズルの型式および噴霧形状を記入する。  
噴霧状態：スポット状→薬液の吐出は細い線（棒）状で、吐出液の終端は広がりをもたず極狭い範囲に散布  
シャワー状→噴板に数多くの吐出穴があり吐出液の終端は噴口直径とほぼ同径の散布幅  
コーン状→薬液の吐出は円錐形状で吐出液の終端は広幅
- カ 設定散布量を記入する。
- ヨ 散布位置は、心止前の場合は茎頂から散布位置までの長さの平均値を記入する。心止め後は心止め位置から噴霧口までの高さを記入する
- タ 動力噴霧器の設定圧力を記入する。
- レ 定量散布で左右のノズルが別々に作動するものについては、左右交互に吐出させた場合と左右同時に吐出させた場合の2例を記入する。なお、機械的に同時散布しかできない場合には、同時散布のみを記入する。  
調査は、各ノズル毎に10回以上調査し“平均値±標準偏差”の形式で記入する。
- ソ タンク内に入れた薬液量を設定薬液量で除した予定散布株数をを記入する。
- ツ タンク内の薬液で散布できた実績散布株数を調査し記入する。
- ネ 散布誤差（予定散布株数と実績散布株数の差÷設定散布株数×100）を計算し記入する。
- ナ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1黄色種 コーカ-3192) 試験区別<sup>ロ</sup>

1区 試験 TSX555 10.0 a

3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌 種類 <sup>ヒ</sup>	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	畦溝の <sup>ト</sup> 水分	畦株間 <sup>チ</sup> 距離	畦 立 の 状 況 <sup>リ</sup>			
						畦長	畦高	畦溝幅	枕地幅
畑	赤ボク	壤土	° 上下5	普 通	cm×cm 115×42	m 92	cm 33	cm 25	m 2.4

## 5 試験成績

1) 作業能率<sup>ス</sup>

作業名 <sup>ル</sup>	作業幅	作業 速度	理 論 作業量	回 行		荷下ろし		ほ 場 作業効率	作業 人員
				時間	回数	時間	回数		
摘 芽	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	%	人
摘 心									
収穫 (中葉)									
収穫 (本葉)									

注) 作業速度： km/h

2) 作業性・操作性



## 運搬作業性対象機種

・高架型作業車

・畦間作業車

※1) 薬剤散布装置付きの場合は、別途、薬剤散布作業性の調査様式に基づき実施する。

2) その他運搬作業機は別途定める。

イ “第1黄色種 コーカー319”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験計画書に記載された試験区別および試験面積を記入する。

ハ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ニ 地目：田，畑の別を記入する。

土壌種類：砂丘未熟地，腐植質黒ボク土，淡色黒ボク土（赤ボク，赤ホヤ，シラス等），赤色土，黄色土，灰色低地土，褐色森林土等の具体的な名前を記入する。

ホ 土性：砂土，砂壤土，壤土，埴壤土，埴土，礫質土の別を記入する。

ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は、緩傾斜，平坦等の別を記入する。

ト 畦溝の土壌水分を達観で調査し，低，普通，高の別を記入する。

チ 畦株間距離を記入する。

リ 畦長，畦高，畦溝幅，枕地幅を記入する。

ヌ “作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。

ル 調査を指示された作業名を記入する。

なお，収穫等着位毎に調査がある場合については，原則として中葉系，本葉系を1回ずつ調査する。

## 4 試験方法

- 1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1黄色種 コーকার319
- 2) 試験区別<sup>ロ</sup> 1区 慣行 高架型作業車  
2区 試験 TSX555 10.0a
- 3) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>  
仕様および図面の部 参照

## 4) ほ地条件

地目 <sup>ニ</sup>	土壌 種類 <sup>ヒ</sup>	土性 <sup>ホ</sup>	傾斜 <sup>ヘ</sup>	畦溝の <sup>ト</sup> 水分	畦株間 <sup>チ</sup> 距離	畦 立 の 状 況 <sup>リ</sup>			
						畦長	畦高	畦溝幅	枕地幅
畑	赤ホヤ	壤土	。上下5	普通	cm×cm 115×42	m 92	cm 33	cm 25	m 2.4

5) 試験区の作業方法<sup>ス</sup>

- (1) 収穫方法 慣行収穫 9.0枚/株  
機械収穫 9.0枚/株 合計 18.0枚/株
- (2) 運搬方法 運搬手段 普通トラック  
運搬距離 1.0km
- (3) 葉分け区分 収穫葉を乾燥室に持ち込み後、3名で葉分けした。
- (4) 乾燥 使用吊具 ダブルラック  
乾燥室 パネル 8.3m<sup>2</sup>2段吊り

## 6) 収穫条件

草丈	幹径	収穫 葉数	収 穫 区 分 <sup>ル</sup>				収穫葉の大きさ <sup>ヲ</sup>			
			中葉	合葉	本葉	上葉	中葉	合葉	本葉	上葉
cm	cm	枚/株	枚/株	枚/株	枚/株	枚/株	cm×cm	cm×cm	cm×cm	cm×cm

注) 収穫葉の大きさは、葉長×葉幅で示した。

7) 乾燥条件<sup>ヅ</sup>

区別	調査 回数	吊具種類	1連当たり葉編み重量			
			中葉	合葉	本葉	上葉
1区	—	ミシン葉編み機	kg/連 13	kg/連 14	kg/連 15	kg/連 13
2区	1	ダブルラック	13	14	15	13
	2	〃	13	14	15	13

## 5 試験成績

## 1) 収穫精度

区別	収 穫 葉 数 <sup>カ</sup>			落葉 <sup>キ</sup>	機械収穫対象葉の内の損傷程度 <sup>ヅ</sup>		
	総枚数	慣行収穫	機械収穫		完全・軽傷	中傷	重傷
2区	枚/株	枚/株	枚/株	枚/畦	%	%	%

注) 損傷程度 完全・軽傷 : 葉に傷がなく中骨折れ等程度のもの  
中傷 : 葉の1/3程度が破損しているもの  
重傷 : 葉の1/3以下に破砕されたもの

## 収穫作業性対象機種

・たばこ収穫機

・総掻き収穫機

イ “第1黄色種 コーকার319”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験計画書に記載された、試験区別および試験面積を記入する。

ハ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ニ 地目：田，畑の別を記入する。

土壌種類：砂丘未熟地，腐植質黒ボク土，淡色黒ボク土（赤ボク，赤ホヤ，シラス等），赤色土，黄色土，灰色低地土，褐色森林土等の具体的な名前を記入する。

ホ 土性：砂土，砂壤土，壤土，埴壤土，埴土，礫質土の別を記入する。

ヘ 上下、等高線別に傾斜度を記入する。角度が調査できない場合は、緩傾斜，平坦等の別を記入する。

ト 畦溝の土壌水分を達観で調査し，低，普通，高の別を記入する。

チ 畦株間距離を記入する。

リ 畦長，畦高，畦溝幅，枕地幅を記入する。

ヌ 試験区の収穫方法、運搬方法、葉分区分、乾燥について例示に基づき記入する。

ル 機械収穫した着位について、株あたりの葉数を記入する。収穫機的能力として収穫できない着位がある場合は、その欄は不要。

ヲ 葉の大きさについては、収穫対象葉を10枚程度調査し、平均値を“葉長×葉幅”の形式で記入する。

ワ 乾燥条件を記入する。なお、試験区については、別の乾燥回期で反復調査を行う。

カ 収穫葉数は〔総葉数＝慣行収穫葉数＋機械収穫葉数〕となるよう記入する。

コ 収穫時の落葉を3畦程度調査し、平均値を記入する。

タ 機械収穫葉の損傷程度を調査しその割合を記入する。

2) 作業能率<sup>レ</sup>

区別	作業幅	作業速度	理論作業量	回 行		袋交換		袋取り下ろし	
				時間	回数	時間	回数	時間	回数
1 区	m	m/s	a/h	分/回	回/10a	分/回	回/10a	分/回	回/10a
2 区									

注) 作業速度: km/h

区別	ほ 場 作業効率	ほ 場 作業量	作業 人員	労 働 時 間 <sup>ソ</sup>			
				収穫	葉分け	葉編・吊込	合計
1 区	%	a/h	人	h/10a	h/10a —	h/10a	h/10a
2 区							

3) 乾葉の外観性状<sup>ツ</sup>

区別	葉分	乾葉の外観性状 <sup>*</sup>	機械収穫による影響 <sup>ナ</sup>
1 区	中葉 合葉 本葉 上葉		_____
2 区	中葉 合葉 本葉 上葉		

4) 乾燥への影響<sup>ヲ</sup>

## 5) 作業性・取扱性

- レ 作業能率の算出方法(pIV-1-3)を参考に記入する。
- ソ 収穫労働時間は、ほ場作業量×人員の時間（延べ時間）を記入する。  
試験区で葉分け作業が別途必要な場合には、葉分け時間（延べ時間）を調査し記入する。  
葉編・吊込み時間を調査し延べ時間を記入する。  
合計は、延べ時間の合計を記入する。
- ツ 機械収穫対象着位について記入する。
- ネ 熟度、色沢、組織、葉肉について短縮形の表現を避けて記入する。  
熟度については、中熟は熟度中庸、熟良は熟度良好とし、色沢では淡オレではなく、淡オレンジと記入する。組織では、組織中庸、やや粗め、充不は充実不足と記入し、葉肉は、中肉、薄肉厚肉の表現とする。  
なお、もろめ、むれ、くすみ等については、『ひらがな』で記入する。
- ナ 機械収穫による影響（青キズ、くすみ、破損等）について簡記する。  
なお、破損については、葉詰め作業時の破損の状況を踏まえ記入する。
- ラ 機械収穫により、乾燥管理等に影響（未乾、むれの発生等）があった場合には、その状況を簡記する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第○黄色種 ○○○○2) 試験区別<sup>ロ</sup>

1 区	対照	慣行（ミシン葉編み機○社型式△△）吊込	1 室
2 区	試験	○○○△△（針ラックは○社型式△△）	1 室

3) 試験回数

中葉系 1 回、本葉系 1 回

4) 供試機の仕様および図面<sup>ハ</sup>

仕様および図面の部 参照

5) 供試乾燥室の仕様<sup>ニ</sup>

区 別	壁・材	床面積	吊 具	吊込段数	標準吊込連数
1 区	パネル	m <sup>2</sup> 8.3	ハンガー	段 2	連/室 72
2 区	パネル	8.3	針ラック	2	72

## 5 試験成績

1) 葉編み状態

区別	調査 <sup>ヘ</sup>	葉分	1 連当たり <sup>ト</sup>		1 連当たり脱落叶 <sup>チ</sup>			
			葉数	生葉重	吊込時	取下時	計	脱落率
1 区	月日 6.11	中葉	枚 270	kg 13	枚 2	枚 0	枚 2	% 0.7
	7.20	本葉	230	17	3	0	3	1.3
		上葉	280	16	0	0	1	0.4
2 区	6.11	中葉	270	13	2	0	2	0.7
	7.20	本葉	230	17	3	0	3	1.3
		上葉	280	16	0	0	1	0.4

2) 作業能率

区別	葉分	吊込 <sup>リ</sup> 連数	乾燥室 1 室当たり作業時間 <sup>ヌ</sup>				
			葉編み	吊込み	取下し	葉ぬき	計
1 区	中葉	連 76	人×h 3.0×1.8	人×h 1.0×1.8	人×h 0.5×2.3	人×h 1.5×2.3	h 11.8
	本葉 上葉	76	3.0×1.5	1.0×1.5	0.5×2.2	1.5×2.2	10.4
2 区	中葉	76	3.0×1.8	1.0×1.8	0.5×2.3	1.5×2.3	11.8
	本葉 上葉	76	3.0×1.5	1.0×1.5	0.5×2.2	1.5×2.2	10.4

注）作業時間で葉編み～葉抜き時間は“作業人員×作業時間”、計は延べ作業時間。

3) 乾燥への影響<sup>ル</sup>

4) 作業性・操作性

5) その他

## 葉編み・吊込み作業性対象機種（黄色種）

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| ・ミシン葉編み機  | ・ダブルミシン葉編み機      |
| ・ハンガー、ラック | ・葉編み台+針ラック+リフタ 等 |

イ “第1黄色種 コーকার319”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験計画書に記載された、試験区別を記入する。なお，試験区別については，1区の場合と2区以上の場合があるので，試験計画書に基づき実施する。

☆ミシン葉編み機、ダブルミシン葉編み機：試験区のみ

☆ハンガー、ラック等：試験区および対照区

ハ 試験回数を記入する。

なお，試験回数については，資器材毎に異なる場合があるので，試験計画書に基づき実施すること。

ニ 供試機の仕様および図面については，別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ホ 試験を行う乾燥室の仕様を記入する。なお，試験を実施する場合，試験区と対照区では同じ仕様の乾燥室を利用すること。

また，標準吊込み連数は，慣行吊具に応じた吊込み連数を記入する。

ヘ 各区、葉分け毎の調査月日を記入する。

ト 1連当たり葉編み枚数、生葉重量を5連程度調査し、平均値を記入する。

チ 1連当たり脱落葉を吊込時、取下時に5連分程度調査した平均値と、脱落率を計算し記入する。

リ 各区毎の吊込連数を記入する。

ヌ 乾燥室の1室当たり作業時間を記入する。

イ）作業は供試機に応じた人員配置を考慮し、必要以上に多くの人員で実施しない。

ロ）葉編み、吊込みおよび取下し、葉抜きで作業時間が区分しにくい場合には，記入欄を合わせてもよい

ハ）吊り込み作業機を取り下ろし時に使用した場合は表下に注釈で記入する。

ル 機材を使ったことにより乾燥への影響がみられた場合には，箇条書きに簡記する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第○黄色種 ○○○○

2) 試験区別<sup>ロ</sup>

1 区 対照 慣行吊込（ミシン葉編み連，手吊り込み） 1 室  
2 区 試験 ○○○△△（針ラックは○社型式△△<sup>ハ</sup>） 1 室

3) 試験回数<sup>ハ</sup>

中葉系 1 回、本葉系 1 回

4) 供試機の仕様および図面<sup>ニ</sup>

仕様および図面の部 参照

5) 供試乾燥室の仕様<sup>ヘ</sup>

区 別	壁 材	床面積	吊 具	吊込段数	標準吊込連数
1 区	パネル	m <sup>2</sup> 8.3	ハンガー	段 2	連/室 72
2 区	パネル	8.3	針ラック	2	72

## 5 試験成績

1) 吊込状態

区別	調 査 <sup>ト</sup>	葉 分	1 連当たり <sup>チ</sup>		吊込連数	吊込機への 搭載連数	吊込機の 使用回数
			葉 数	生葉重			
1 区	月日 6.11	中葉	枚 270	kg 13	連/室 72	連/回 -	回/室 -
	7.20	本葉・上葉	230	17	72	-	-
2 区	6.11	中葉	270	13	72	4	18
	7.20	本葉・上葉	230	17	72	4	18

2) 作業能率

区別	調 査	葉 分	乾燥室 1 室当たり作業時間 <sup>リ</sup>			
			吊り込み	取り下ろし	葉抜き	計
1 区	月日 6.16	中葉	人×h 2×1	人×h 2×0.6	人×h 2×0.4	h 4.0
	7.25	本葉・上葉	2×1	2×0.6	2×0.4	4.0
2 区	6.16	中葉	1×0.7	2×0.6	2×0.4	2.7
	7.25	本葉・上葉	1×0.7	2×0.6	2×0.4	2.7

注）作業時間で葉編み～葉抜き時間は“作業人員×作業時間”、計は延べ作業時間。

3) 乾燥への影響<sup>ス</sup>

4) 作業性・取扱性

5) その他



## 吊込み作業性対象機種（黄色種）

・吊り上げ機

・リフタ

イ “第1黄色種 コーকার319”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験計画書に記載された、試験区別を記入する。なお，試験区別については，1区のみの場合と2区以上の場合があるので，試験計画書に基づき実施する。

対照区：吊具名（型式）、吊り込みの方法まで記入する。

試験区：試験に用いた吊り込み機の型式を記載する。

ハ 試験区に用いた吊具が対照区と異なる場合はその用いた吊具の会社名、型式も記入する。

ニ 試験回数を記入する。

なお，試験回数については，資器材毎に異なる場合があるので，試験計画書に基づき実施すること。

ホ 供試機の仕様および図面については，別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ヘ 試験を行う乾燥室の仕様を記入する。なお，試験を実施する場合，試験区と対照区では同じ仕様の乾燥室を利用すること。

また，標準吊込み連数は，慣行吊具に応じた吊込み連数を記入する。

ト 各区、葉分け毎の調査月日を記入する。

チ 1連当たり葉編み枚数、生葉重量を5連程度調査し、平均値を記入する。

リ 乾燥室の1室当たり作業時間を記入する。

イ）作業人員は供試機の通常使用する人員を考慮して実施する。

ロ）葉編み、吊込みおよび取下し、葉抜きで作業時間が区分しにくい場合には，記入欄を合わせてもよい

ハ）吊り込み作業機を取り下ろし時に使用した場合は表下に注釈で記入する。

ヌ 機材を使ったことにより乾燥への影響がみられた場合には，箇条書きに簡記する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1 バーレー種 バーレー21

2) 試験区別<sup>ロ</sup>

1 区 対照 連編み機または手作業 5.0 a  
2 区 試験 在バ用〇〇葉編み機 TSX555 5.0 a

3) 試験回数<sup>ハ</sup>

中葉系3回（下葉、中葉、合葉）

4) 供試機の仕様および図面<sup>ニ</sup>

仕様および図面の部 参照

5) 供試懸吊具の名称・型式・仕様<sup>ホ</sup>

6) 供試葉たばこの性状および葉編み条件<sup>ヘ</sup>

葉分	葉の形状			予 定 葉編枚数
	葉長	葉幅	重量	
下葉 中葉 合葉	cm	cm	g/枚	枚/連

## 5 試験成績

1) 葉編み精度

区別	葉分	1 連当たり		葉編み <sup>チ</sup> ピッチ	脱落葉数 <sup>リ</sup>		備 考 <sup>ス</sup>
		葉編枚数 <sup>ト</sup>	葉編重量		葉編直後	乾燥中	
1 区	下葉 中葉 合葉	枚・m/連	kg/連	cm/枚	枚/連	枚g/連	
2 区	下葉 中葉 合葉						

2) 作業能率

区別	葉分	葉編み作業時間 <sup>ル</sup>		吊込み時間 <sup>ヲ</sup>	葉抜き時間 <sup>ヅ</sup>	備 考 <sup>カ</sup>
		1 人作業	2 名作業			
1 区	下葉 中葉 合葉	分/連	分/連 — — —	分/連	分/連	
2 区	下葉 中葉 合葉					

3) 乾燥への影響<sup>コ</sup>

4) 作業性・操作性<sup>ク</sup>

葉編み・吊込み作業性対象機種（在来種・バーレー種）

・在来種・バーレー種用葉編み機（連編み機除く）

イ “第1バーレー種 バーレー21”のようにB区分，C区分を併記する。

ロ 試験区別を記入する。

ハ 試験回数を記入する。調査は原則として中葉系で3回実施する。機材によっては、中葉系2回本葉系1回の場合があるので、その際は専門委員の指示による。

ニ 供試機の仕様および図面については、別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。

ホ 2ハンガー以外の連縄は太さと連全長を記入，また懸吊具の有効編込み長（連縄の場合吊り手に巻き付ける部分除くも記入）。

へ 供試した葉タバコの性状を20枚程度調査し平均値を記入する。なお、着位毎の葉編み予定枚数も記入する。

ト 1連当たり葉編み枚数・葉編み長を10連分程度調査し記入する。

例)

枚・m/連 105・3.6
------------------

チ 葉編みピッチを10連程度調査し、平均値を記入する。

リ “葉編み直後から吊込時”および“乾燥中”の脱落葉を10連分程度調査し、平均値を記入する。

ヌ 葉の損傷等について気づいた点を記入する。

ル 1連当たり葉編み作業時間を10連程度調査し、平均値を記入する。  
なお、試験区については、1名作業時と2名作業時の作業時間を別々に調査する。

ヲ 1連当たりの吊込時間を10連程度調査し、平均値を記入する。

ワ 1連当たりの葉抜き時間を10連程度調査し、平均値を記入する。

カ 機械によっては、編み終わりから編み始めまでの待ち時間が発生する場合があるので、その場合、1名作業時の葉編み時間に対する待ち時間の割合を調査し記入する。

コ 機械を使ったことにより乾燥への影響（葉編み後の脱落葉、むれの発生、吊り腐れの発生等）が見られた場合には、箇条書きに簡記する。

タ 連縄以外の糸等を使った場合には、連の取扱性（葉編み連の運搬、吊込み、葉抜き等）についても記入する。

## 4 試験方法

1) 供試品種<sup>イ</sup> 第1黄色種 コーカ-3192) 試験区別<sup>ロ</sup>

1 区 対照 一般梱包機

2 区 試験 圧搾梱包機 TSX555

3) 試験回数<sup>ハ</sup>

中葉系1回、本葉系1回 各5包

4) 供試機の仕様および図面<sup>ニ</sup>

仕様および図面の部 参照

5) 処理方法<sup>ホ</sup>

葉詰め箱を2個利用し、葉詰め、圧搾を交互に行った。

## 5 試験成績

1) 作業能率<sup>ヘ</sup>

区別	葉分	調査	作業 人員	袋のト 装着	機械の脱着 <sup>チ</sup>		1 包当リ 葉詰め 時 間	圧 搾 <sup>ス</sup>		取出 <sup>ル</sup> 梱包	梱包 <sup>フ</sup> 重量
					1 回当 時 間	1 包当 回 数		1 回当 時 間	1 包当 回 数		
1 区	中葉	月日	人	分/包	分/回	回/包	分/包	分/回	回/包	分/包	kg/包
	本葉										
2 区	中葉										
	本葉										

2) 割入れ状況（調査：○月○日）<sup>ロ</sup>

区別	葉分	割入の難易 <sup>カ</sup>	葉肉の破碎 <sup>キ</sup>	中骨の破碎 <sup>ク</sup>	葉の圧搾状態 <sup>レ</sup>
1 区	中葉				
	本葉				
2 区	中葉				
	本葉				

注）試験区の割入れ状況は、対照区に比較した状況を記入した。

3) 作業性・操作性

圧搾・梱包作業性対象機種

・圧搾梱包機

- イ “第1黄色種 コーカー319”のようにB区分，C区分を併記する。
- ロ 試験区別を記入する。
- ハ 試験回数を記入する。調査は原則として中葉系、本葉系各5包とする。
- ニ 供試機の仕様および図面については，別掲とするので“仕様および図面の部 参照”と記入する。
- ホ 処理方法を例示に基づき記入する。
- ヘ 各葉分けとも5包程度を実施し、平均値を記入する。  
なお、水分管理に十分配慮し、水分過多の場合は実施しない。
- ト 袋の1包当たり装着時間を記入する。
- チ 機械（葉詰め箱）の脱着があれば，1回当たり時間および1包当たり脱着回数を記入する。
- リ 1包当たり葉詰め時間を記入する。
- ヌ 1回当たり圧搾時間および1包当たり圧搾回数を記入する。
- ル 包の取り出しから紐の結束までの梱包時間を記入する。
- ヲ 調査した包の平均重量を記入する。
- ワ 調査月日を記入するとともに作業能率調査を実施した包を割り入れし、達観で調査する。
- カ 割入れの難易を対照区と比較して，“多、普通、易”で記入する。
- ヨ 葉肉の破碎の程度を対照区と比較して，“多、普通、少”と記入し、ひび割れの多少についても観察結果を記入する。
- タ 中骨の折れ、破碎の程度を対照区と比較して，“多、普通、少”で記入する。
- レ 圧搾状態について、簡記する。